

小さな近代国家

自然災害も少なく政治も安定している。アジアそして世界の企業や金融の拠点として位置づけられているシンガポール。ここは狭く限られた島国ゆえに、当然高層ビルを目指す以外に選択肢はなく、街の中心部は競うように超高層ビルが林立していた。

これまでニューヨークの摩天楼は 50 年以上に渡り圧倒的に世界一であったが、近年の建設ラッシュの波は経済力の発展著しいアジア諸国に移りつつあるようだ。古くは香港から東京、ドバイ、上海、新セン、そしてシンガポールなどがある。摩天楼とは「天を摩するなどの高楼」の意味。英語では Sky scraper (スカイ スクレイパー「天を削るもの」) である。



セントンウェイは高層ビルが林立するシンガポールのビジネス街である。ここは銀行や証券会社が集まる東南アジアの金融ハブであり、IT 産業を支える企業も近年成長が著しい。これらのビル群は一か所にかたまり、それほど大きなスペースを取っているわけではない。しかし摩天楼の谷間に入ってしまうと、見上げれば首が痛くなり迷子にでもなりそうな感じがする。平日には南国であってもスーツ姿が目につき、世界を動かすハイソサエティのビジネスマンが颯爽と歩いており、まさに活気溢れる地域であった。

撮影 2011 年夏

